

新型シエンタLPG改造車を導入



日本城タク、燃料代削減に期待

日本城タクシート（大阪市、坂本篤紀社長）グループはこのほど、トヨタ新型シエンタをLPG

ガス・ガソリンバイブルーエル車に改造し、タクシー車両としての営業を2月21日から開始した。改造メーカーのケイテック

（山形県酒田市、小松豊社長）が手掛け、計15台を改造した。

坂本社長は燃料価格高騰を受けて「ガソリンと比べて燃料代

が4割近く抑えられるのでは」とメリットを話し、改造により「ガソリンエンジンの燃料噴射『インジェクション』周りがLPGガスにすること】ですすがたまりにくくなる」と環境への配慮も強調する。

LPGガス・ガソリンバイブルーエルに改造した新型シエンタ内部を紹介する坂本社長。ガスタンクは約40㍑充填できる

改造費用は1台当たり約70万円前後。「クラウンコンフォートと比べると、月7万円コストダウンが見込め、年間でみると84万円抑えられる」と話す。改善点として、燃料タンクを車体下に収納できておらずトランクルームの積載スペースが狭くなることを指摘、「車載スペースを使いやすくなるように工夫していきたい」と話す。